

平成 26 年度を迎えて

国大化学会会長 平井太一郎（昭和 41 年 2 部応化卒）

国大化学会総会

平成 26 年 5 月 31 日（土）横浜崎陽軒本店で第 8 回国大化学会総会を開催いたしました。

総会の前に 14 時から横浜化学会同窓委員会を開催いたしました。国大化学会の詳しい活動状況の報告を行い、今後の同窓委員会の方向等についてご意見をいただきました。校友会についてのご説明をいたしました。（校友会につきましては後ほど詳しくご説明いたします。）同窓委員会は国大化学会の土台となるものです。貴重なご意見をもとにして、今後の同窓委員会のあり方を考えていきたいと思っております。

16 時からの総会に始まり、恒例の講演会に移りました。今年の講演は、先日旭日重光章を受章されました株式会社ニコン元会長（現相談役）荻谷道郎氏（昭和 40 年応化卒、昭和 42 年工学部研究科修了）にお願いいたしまして“ニコンの技術経営 「期待を超えて、期待に応える」の実現に向けて”との演題で、ニコンの経営を通しての貴重なお話をいただきました。技術者として、技術の可能性、経済的合理性、価値と価格が見合うか、世界と戦うにはどうするか、まねのできない技術、潜在要求の顕著化、技術力とマーケティングの融合、経営者として、人材育成、原価意識の徹底、情報の共有化と迅速な意思決定、会社の方向性（中長期の目標、企業のあり方、資源の投入の選択）等の具体的事例を示され、話をいただきました。学生会員には難しいこともあったかもしれませんが、将来必ず役に立つことと確信いたします。技術・経営について数字・グラフを駆使され丁寧に直接お話を聞かせていただきありがとうございました。個人的には現役の時にお聞きできたらと強く思いました。

講演会終了後、懇親会に移りました。ご来賓のご祝辞をいただき、続いて樋口修一郎初代会長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。今年は講演会・懇親会に横浜三工会（注）の希望で 17 人ほど参加されました。



（注）横浜三工会：横浜化工会，横浜安工会，横浜エネルギー会，環境エネルギー安全工学同窓会が中心となり統合して横浜三工会となっています。現在学生は 1 年次には国大化学会系と三工会系ともに一緒に勉強して、2 年次になるときに国大化学会系，三工会系に分かれます。

“ネットワークの充実と会員相互の交流”の新しい時代

“ネットワークの充実と会員相互の交流”は国大化学会の方針の 1 つです。検討してきました会員情報システムが来年の早い時期よりスタートいたします。従来の名簿を会員情報システムに移行することで、会員が必要とする情報が早く整理された状態で利用できます。この会員情報システムを利用することで新たな会員相互の交流が成されるものと期待しています。（ご希望の方には従来と同様、印刷した名簿を有償でお分けいたします。）

平成 26 年度国大化学会の活動

国大化学会は多くの化学系研究者・技術者が育つことを望んでいます。そのために活動の中心を学生支援に置いています。学生支援の資金は教育研究支援基金の運用によっています。本年度からは皆様から会費納入時にいただいた寄付は全額教育研究支援基金に振り分けます。（従来は会費と同様に一般会計に入れていました。）

〈学生支援活動〉

- ・学会参加費の補助
 - ・成績優秀者表彰の副賞（図書カード）
 - ・化学系コース歓迎会賛助
 - ・OB・OG と語る会
 - ・就職支援
 - ・OB・OG を訪ねての企業見学（交通費）
 - ・ドクターコーススタートアップ支援
- 昨年の後半からスタートさせました。ドクターコースへの進学への補助をすることで、より優秀な化学者を育てる一助になればとの気持ちで新設いたしました。

〈情報の交流とネットワークの充実〉

- ・ホームページ・メルマガの発信（ホームページの更新、メルマガ12回発行）
- ・会員情報システム（名簿管理を含めて）

横浜国立大学校友会の設立に向けて

大学側と同窓会で校友会の設立準備をしていますが、大学側主導のもと、同窓会と並列に全学の在校生・教職員・同窓生全員とする校友会を発足すべく校友会設立発起人会を6月18日に開催して、横浜国立大学校友会は本年の10月25日（ホームカミングデー）に発足することになりました。

〈校友会の設立趣旨〉

横浜国立大学は高い研究教育力を持つ国際拠点として、進化・発展していくことが重要です。そのために本学と卒業生とのネットワーク・企業社会との実践的連携をより強化にすることが必要です。すでに存在する各学部学科の同窓会にくわえて、現役学生、現職の教職員、教職員OB、卒業生、その他本学に深いかかわりを持つ方々すべてを包括するコミュニティの育成・発展を図るために、大学が主体となって「校友会」を設立いたします。

校友会は本学に関係するすべての方で会員間の交流が促進され、双方向の新たな関係が構築され、横浜国立大学の基盤がより強固になり、さらに発展することを期待いたします。

〈会費〉

入学時に新入学生から徴収し、その資金で校友会を運営いたします。（初回は平成27年4月の入学時）卒業生からは徴収しませんが、寄付をお願いすることもあります。

その他の事項

〈理工学部系同窓会の結成に向けて〉

理工学部には現在8つの同窓会があります（国大化学会、生産工学科同窓会、水煙会、弘陵造船航空会、横浜電子情報工学会、横浜三工会、横浜国大土木同窓会、横浜知能物理同窓会）。

工学部同窓会の共通事業・全学同窓会活動の受け皿とし、理工学部同窓会連合として機能してきました。しかし、度重なる学科編成により同窓会への帰属意識も希薄となり、卒業生データの把握も難しくなると同時に同窓会会費の徴収率も低いレベルとなっています。

各同窓会の事務も重複していることも多く、各同窓会の財政を圧迫しています。また学科編成により8つの同窓会に属さない卒業生も新たに出現します。

これらの現状を打破するために実行組織である“理工学系同窓会”を検討しています。

会の名称は“名教自然会”が有力候補になっています。初めの活動としては理工学部の卒業生情報の整理が考えられています。

〈プラウド卒業生文庫の創設〉

学生に励みとなる先輩をプラウド卒業生として選任して図書館にプラウド卒業生文庫を創設いたしました。（各学部より毎年1人推薦する。）

26年は、友松会推薦：酒井恒氏（1903－1986）富丘会推薦：長洲一二氏（1919－1999）工学部同窓会連合推薦：櫻井一郎氏（1929－2011）となりました。

〈ホームカミングデー〉

平成26年10月25日（土）常盤台キャンパス

今年は横浜国立大学校友会の設立も行われます。ふるってご参加ください。

『改革』～これまでの10年、これからの10年

国大化学会副会長 藤田泰嗣（平成8年物工卒）

2004年の国立大学法人への移行から10年、国立大学を取りまく環境は激変し、運営が大学自体の責任においてなされるという、いわば自己責任を余儀なくされています。そして、これとともに各大学が個別に「評価」と「競争」にさらされるようになってきているのは会員の皆様ご承知のとおりです。



2013年11月文部省は「国立大学改革プラン」を発表し大学機能のさらなる強化方策とともに、具体的な目標を打ち出してきました。横浜国立大学も例外なくその影響下にあります。かつての工学部が自然科学を扱う理学から人工物を扱う工学まで広い分野の基盤的学術を体系化する理工学部となったこと、このこともまた「利益を生む実践的学部」として高い期待を担うようになってきていることのあらわれといえるでしょう。

日本経済はおろか、世界中で経済も政治も先が見えない混沌を呈する今、自律的に考え、合理的に判断をくだせる、実践的な人材の輩出こそが大学の「評価」につながり得るのは自明ともいえるでしょう。そしてそのためには同窓会の役割もまた一層重要になっていくものと考えております。国大化

学会では従来の学生支援に加え、博士課程後期に進学する学生への支援策を打ち出しました。会員の皆様には国大化学会への一層のご支援を賜りつつ、ともに力を合わせて理工学部・大学院の発展に寄与して参りたいと心から願っております。

10月25日には9回目となるホームカミングデーが開催されます。この日は、会員相互のみならず先生方や学生達とも学部、世代、属性の壁を越えて交流し、親睦を深めるよい機会であります。是非、母校（常盤台キャンパス）へお立ち寄り頂ければ幸いに存じます。

末筆ではありますが、国大化学会会員の皆様のご活躍とご健勝を心より祈念申し上げます。